

内人がテーブルのボールを持つてくる。

①②③④⑦、五つのボールを、どのようにおけばいいのだろうか？

●じつは、このボールと箱は、ある三けたの『答え』をみちびく暗号になっている。『答え』がわかったら、その番号へ（ただし、進んでも話がつながらないようなら、その番号はまちがいだ。もう一度ここにもどってきて考えなおそう）

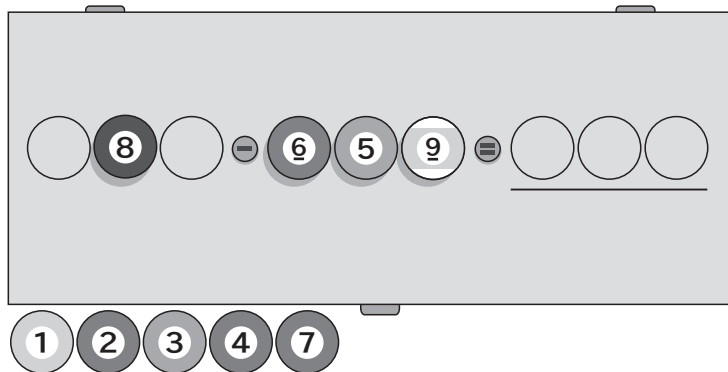
●わからない。創也に助けをもとめる……130へ

## 65

なんだかあやしい。これが本物にちがいない！ きみはカードをとった。すると、電子音の「ゴ、ヨン、サン……」というカウントダウンがはじまった。67へ。

## 66

「ここは脱衣所だついしょのようだ。ということは、奥おくの扉とびらの先はお風呂場ふろばだね」



きれいにみがかれた洗面台に、木でできた棚たなとカゴ。体重計もおいてある。

となりの部屋はやはりお風呂場ふろばで、大人三人はらくに入れそうな、大きめの浴槽よくそうがあった。

「あ、窓があいてる！」

内人が大声をあげる。内人のいうとおり、窓のガラス戸がずれている！

きみたちは窓にかけよる。しかし、窓の外にはがっしりした格子こうしがはまっていた。うでが通るくらいくらいのすきまはあるが、外にはでられそうにない。

「やっぱり、そんなにかんたんに脱出だつしゅつできるはずないか」

窓のすぐそばには花壇かだんがあり、いろいろな草が元気に生えている。

「ねえ、あれって薬草やくそうじゃないかな？ 役に立ちそう！」

内人のことばに、創也もうなずく。

「柳川やながわさんは薬草を育てているときいたことがある。それに、R P Gロールプレイングゲームに薬草は必須ひつすアイテムだし、しかし、薬草の生えている花壇が、思いのほか遠い。

きみたちは交代で窓の外に手をのばしたが、十センチほどとどかず、手は空をつかむ。

なにか役に立つものがないか、『持ちもの』を見てみよう。

●《持ちもの》に、食べ物をつかむための「トング」があるなら………127へ  
●役に立つものがなければ、ここはあきらめよう。《一階の地図》を見て、いきたい部屋の番号へ